

報道関係者各位

2026年8月28日

## 新規ADC DS1025の固形がん患者を対象とした第1相臨床試験を開始

第一三共株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 兼 CEO:奥澤 宏幸、以下「当社」)は、進行性または転移性の固形がん患者を対象としたDS1025(抗CD25抗体薬物複合体(ADC)<sup>\*1</sup>、以下「本剤」)の第1相臨床試験において、最初の患者への投与を開始しましたので、お知らせいたします。

本剤は、CD25を標的とする抗体に、がん免疫に最適化した細胞傷害性ペイロードを搭載したADCで、当社独自のDXd ADC技術を応用し創製されました。腫瘍微小環境における制御性T細胞(Treg細胞)を除去することで、抗腫瘍免疫を活性化します。

CD25はTreg細胞に高発現する細胞表面タンパク質であり、Treg細胞はがんに対する免疫系の応答を抑制することから、有望な治療標的と考えられています。現在、あらゆるがん種に対し、CD25を標的とするADCは承認されていません。

本試験は、1つ以上の標準治療を受け、その治療中または治療後に病勢進行が認められた進行性または転移性の固形がん患者を対象に、本剤の安全性と忍容性および予備的有効性を評価するグローバル第1相臨床試験です。本剤の投与量を段階的に増やししながら、用量制限毒性および有害事象を含む安全性と忍容性を評価します。全奏効率<sup>\*2</sup>、奏効期間<sup>\*3</sup>等の有効性についても探索的に評価します。日本を含むアジアおよび欧州において、最大45名の患者を登録する予定です。

当社は、幅広いがん種において新たな治療の選択肢を提供するため、本試験を通じて本剤の価値を評価するとともに、当社ADCポートフォリオの価値最大化を目指してまいります。

以上

<sup>\*1</sup> 抗体薬物複合体(ADC)とは、抗体と薬物(低分子化合物)を適切なリンカーを介して結合させた薬剤で、がん細胞に発現している標的因子に結合する抗体を介して薬物をがん細胞へ直接届けることで、薬物の全身曝露を抑えつつがん細胞への攻撃力を高めています。

<sup>\*2</sup> 全奏効率とは、完全奏効/寛解または部分奏効/寛解が得られた患者の割合です。

\*3 奏功期間とは、客観的奏効(完全奏効/寛解または部分奏効/寛解)が最初に確認された日から、客観的腫瘍進行が確認された日または死亡日のうちいずれか早い方までの期間です。

### 第一三共の ADC パイプラインについて

第一三共の ADC パイプラインは、第一三共独自の ADC 技術プラットフォームから創製された、商業化・臨床開発段階にある9つの ADC から構成されています。

その中の7つの ADC は、がん細胞表面に発現する特定の抗原を標的とした抗体と、複数のトポイソメラーゼ I 阻害剤(DXd)をリンカーを介して結合させ、がん細胞の内部へ DXd を届ける DXd ADC 技術を用いて創製されました。トラスツズマブ デルクステカン(エンハーツ®、抗 HER2 ADC)およびダトポタマブ デルクステカン(ダトロウェイ®、抗 TROP2 ADC)は、全世界(当社が独占的権利を有する日本は除く)においてアストラゼネカと共同で開発および商業化を進めています。イフィナタマブ デルクステカン(I-DXd/DS-7300、抗 B7-H3 ADC)、ラルドタツグ デルクステカン(R-DXd/DS-6000、抗 CDH6 ADC)およびパトリツマブ デルクステカン(HER3-DXd/U3-1402、抗 HER3 ADC)は、全世界(当社が独占的権利を有する日本は除く)において Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA と共同で開発および商業化を進めています。DS-3939(抗 TA-MUC1 ADC)および DS3790(抗 CD37 ADC)は当社が単独で開発を進めています。

STING アゴニストとして作用する新規ペイロードを、Fc 領域に変異を導入したモノクローナル抗体に結合させた DS3610(STING アゴニスト ADC)および、DS1025(抗 CD25 ADC)は当社が単独で開発を進めています。

なお、イフィナタマブ デルクステカン、ラルドタツグ デルクステカン、パトリツマブ デルクステカン、DS-3939、DS3610、DS3790 および DS1025 は現在開発中の薬剤です。安全性および有効性はまだ確立されておらず、各国の規制当局による薬事承認は受けていません。

本件に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社 広報部  
TEL: 03-6225-1126